

四国医療リハビリテーション

同窓会誌



2026. VOL.17

《目次》

- 同窓会誌発行によせて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- 学術研修大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
「上肢帯における機能解剖と臨床応用+α」医療法人社団聖心会 阪本病院 藤井保貴先生

- 学生優秀賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
理学療法学科 石井虹名
作業療法学科 川崎愛佳

- 24～25期生歓迎会の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- 25期生の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
香川県立中央病院 理学療法士 小川僚介
三豊総合病院 作業療法士 磯野真如

- 26期生の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター 理学療法士 豊田紗那
博愛記念病院 作業療法士 西岡田悠人

- 新しい先生の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

- 総会・役員会・理事会の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- 同窓会年間スケジュール・勉強会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

- 編集後記・・ 21

《同窓会誌発行によせて》



四国医療リハビリテーション同窓会会長

17期生 作業療法士 鎌倉 亮

この度、四国医療リハビリテーション同窓会の会長を拝命しました、三豊総合病院で作業療法士として勤務している鎌倉亮と申します。同窓会役員をはじめ、会員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかとは存じますが、一所懸命に務めて参りますので宜しくお願い致します。

私が作業療法士として働き始めて、今年度で10年目に入りました。専門学校卒業後は同窓会主催の勉強会や学術大会に参加させていただき、そこでは講師の先生方が日々の臨床で経験され、培われてきた知識を踏まえた講演や発表があり、私自身とても参考になる内容ばかりでとても有意義な時間を過ごすことができました。そのような機会を設けていただいた当時の同窓会役員の皆様にはとても感謝をしています。先日の第13回四国医療リハビリテーション同窓会学術大会の閉会式の際に林前会長からの挨拶にもありましたが、ここ数年間で勉強会や学術大会への参加者が減少していると言われていました。私が運営委員として携っている香川県作業療法学会も同様の状況となっています。日本の医療は日々進歩しているため、私たち療法士は対象者の機能改善・QOLの向上を図るため、理学療法士・作業療法士免許取得後も自分自身の知識や技術をアップデートしていくことが必要な職業であると思います。また、今年度からリハビリテーションの分野において大幅な診療報酬改定が行われます。対象者やその家族、医師や看護師等の医療従事者、教職員、市町村職員等の多職種から今まで以上に療法士一人ひとりの知識や技術が問われる世の中になっているように感じています。四国医療リハビリテーション同窓会では、これまで通り対面+オンラインでの勉強会や学術大会を開催し、知識・技術の習得ができる場を設けていきたいと考えています。また、毎年7月頃には新人歓迎会を開催していますので、多くの会員の方に参加していただき、臨床年数に関係なく会話をし他施設の先生方との繋がりを深められる場の提供をしていきたいと思ひます。

最後になりますが、四国医療リハビリテーション同窓会発展のためには、先輩方や後輩の皆様のお力が必要です。一人でも多くの会員の方に勉強会や学術大会、新人歓迎会に参加していただき、何か意見がありましたら聞かせていただければと思います。理学療法・作業療法の発展に寄与できる四国医療リハビリテーション同窓会を皆様と創って参りましょう。今後ともご協力の程、宜しくお願い致します。

《 学術研修大会 》

「医療は手当て ～その手と心に巧を目指して～」

【会期】令和8年3月8日(日)

【会場】四国医療専門学校3号館 講堂



特別講演 医療法人社団聖心会 阪本病院 藤井保貴先生

「上肢帯における機能解剖と臨床応用+

特別講演では、医療法人社団聖心会阪本病院の藤井保貴先生より「上肢帯における機能解剖と臨床応用+ α 」についてご講演頂きました。

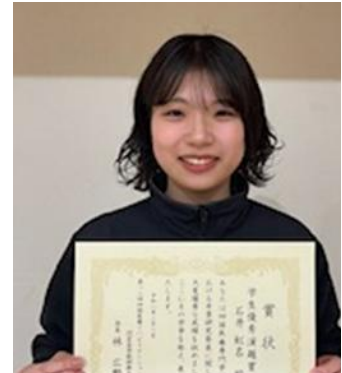
上肢帯において、様々な部位や姿勢との関連性、心理的影響により動作に制限が出てくること、上肢の治療を行う上で単に関節や筋力を見るだけではなく、姿勢の調整、体幹や骨盤帯の安定性の有無など評価していく必要性があるなど理解を深めることができました。また、治療方法等も必要なポイントがわかりやすく臨床場面で活用しやすいと思いました。今後、臨床場面で活用できるようにさらに理解を深めていきたいと思いうことが出来ました。

《優秀臨床研究論文賞》

日常動作から見える筋肉の衰え

— ペットボトル開閉とサルコペニア —

理学療法学科 4年 石井虹名



Key words : ペットボトルの開閉動作、サルコペニア、握力

【はじめに】

我が国では少子高齢化が著しく進行し、2060年には高齢化率が40%近くに達すると推計されている。これに伴う身体機能低下、特に加齢性筋力・筋量減少であるサルコペニアへの対策が重要な課題である。握力はサルコペニアの主要な診断基準の一つであり、死亡率や予後を予測する有力な指標とされる。日常生活でペットボトルのキャップ開閉に困難を感じる高齢者は多く、この動作には握力が深く関与している。本研究は、高齢者におけるペットボトル開閉動作の可否を明らかにするとともに、その関連因子およびサルコペニアとの関係を検討し、簡便なスクリーニング指標としての有用性を評価することを目的とした。

【対象と方法】

対象は、65歳以上の地域在住高齢者10名および通所介護利用者19名、計29名（男性3名、女性26名、平均年齢75.0±5.2歳）とした。調査項目として、基礎情報（性別、身長、体重、利き手、転倒歴など）、身体活動量（IPAQ）を実問表にて収集した。そして身体機能評価として、下腿最大周径、Short Physical Performance Battery（SPPB）、握力、膝伸展筋力、ピンチ力、利き手の手関節可動域MP/PIP/DIP、手指長、Timed Up and Go Test（TUG）などを実施した。最後に、500mLペットボトルを用いて、一方の手でボトルを固定し、他方の手でキャップの開閉を行う動作の可否を評価した。統計解析には、改変Rコマンドにて共分散分析（ANCOVA）を用いた。群要因をペットボトル開閉可否の2群（開閉可能群・開閉困難群）とし、デイサービス利用の有無を共変量として設定した。ANCOVAで有意差が見られた変数に対してカットオフ値を算出するためにReceiver Operating Characteristic（ROC）曲線を実施した。統計学的有意水準は5%とした。

【説明と同意】

本研究の目的および内容を文書および口頭で説明し、すべての対象者から自由意思による書面での同意を得た上で実施した。

【結果】

共分散分析の結果、右握力（ $p=0.0168$ ）、SPPB合計点（ $p=0.0036$ ）、4m歩行速度（ $p=0.0003$ ）、バランス（ $p=0.0485$ ）、および膝伸展筋力（ $p=0.0007$ ）の5項目において、ペットボトル開閉可能群が開閉困難群に比べ、いずれも有意に高値を示した。一方で、利き手指屈曲可動域MP/PIP/DIP、手指長、下腿最大周径（右/左）、握力左、ピンチ力（右/左）、TUG、IPAQ、5回立ち上がり動作では有意差は認められなかった。ROC解析の結果、右握力のAUCが0.9553と最も高く、ペットボトル開閉動作の可否を最も良好に判別した。そのカットオフ値は16.36 kg（感度0.895、特異度0.900）であった。SPPB

合計点（カットオフ値 6.54 点）および膝伸展筋力も高い AUC を示した。（表 1）

表 1 各指標の ROC 解析結果

指標名	最適カットオフ値	感度	特異度	AUC	95%信頼区間
右握力 (kg)	16.36	0.895	0.900	0.9553	0.8894-1.0000
SPPB合計 (点)	6.54	0.947	0.800	0.9395	0.8586-1.0000
膝伸展筋力 (kgf)	13.84	0.895	0.800	0.9263	0.8336-1.0000
右ピンチ力 (kg)	12.69	0.579	0.900	0.8553	0.7235-0.9870
IPAQ合計 (点)	15.86	0.526	0.900	0.7368	0.6009-0.8728
右下腿最大周径 (cm)	31.25	0.684	0.600	0.7211	0.5359-0.9062

さらに、右握力および SPPB 合計点はペットボトル開閉可否を最も良好に識別する指標であった。このため、本研究では開閉動作との関連をより視覚的に示すため、右握力と SPPB 合計点の 2 項目を代表指標として図示した。（図 1.2）

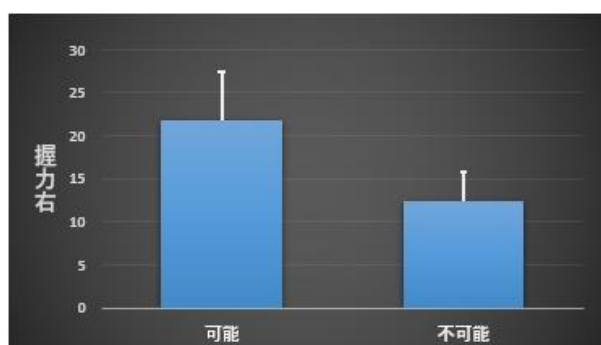


図 1 右握力の比較

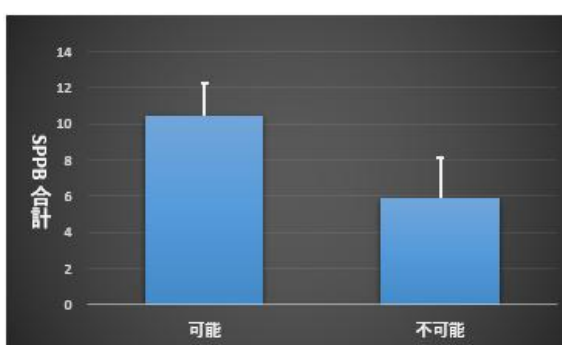


図 2 SPPB 合計点の比較

【考察】

本研究の結果は、ペットボトル開閉という日常的動作の可否が、右握力だけでなく下肢筋力・移動機能（SPPB 合計点、4m 歩行速度、バランス、膝伸展筋力）に有意差が確認され、全身的な筋力・運動機能の低下と密接に関連していることを示唆する。特に右握力のカットオフ値 16.36 kg は、先行研究で報告された高齢女性の自立生活に必要な握力水準 (16.1kgf) と近接しており、ペットボトル開閉動作が、サルコペニアの診断基準である低筋力を予測する実用性の高い指標となることを強く裏付けている。また、握力以外の機能指標も有意差を示したことは、ペットボトル開閉動作が単なる握力の問題に留まらず、サルコペニアの構成要素である移動機能や姿勢制御力の低下をも反映していることを示している。デイサービス利用の有無を共変量として解析しても、握力および下肢筋力・機能関連指標の有意差は維持され、環境要因の影響を受けにくい身体的機能指標としての堅固な関連性が確認された。以上を総合すると、ペットボトル開閉動作は、握力を中心とするサルコペニア評価基準と関連する簡便な日常動作指標となる可能性が高い。臨床現場・地域包括ケア・予防リハビリテーションの場面では、「ペットボトル開閉できるか」を簡易質問・観察項目として導入し、わずかにでも開閉困難を示す者に対して握力測定・下肢筋力・歩行速度などをフォローアップする戦略が考えられる。ただし、本研究は横断的デザインであり、因果関係を直接示すものではない。また、ペットボトル開閉動作の測定条件（利き手／ペットボトルの種類／キャップの固さなど）にばらつきが存在し得る。さらに、本研究では地域在住高齢者とデイサービス利用高齢者を同一分析内で扱っているが、両群間では身体機能や活動量に明確な差がみられる可能性がある。そのため、今後は対象者層を分けて検討し、それぞれの特徴に応じた基準値や判

定法を検討することが必要である。今後は、縦断研究や介入研究により、ペットボトル開閉動作が筋力低下の予測因子として機能するか、介入によって改善可能な指標となるかを明らかにする必要がある。

【まとめ】

ペットボトル開閉動作が困難な高齢者では、握力や下肢筋力、身体的機能低下がみられることから、この開閉動作はサルコペニアの初期段階を反映する動作であると考えられる。ペットボトル開閉の可否は、簡便で非侵襲的なサルコペニアのスクリーニングおよび予防の初期評価として極めて有用な指標となる可能性が高い。今後は縦断研究や介入研究により、ペットボトル開閉動作が筋力低下の予測因子として介入によって改善可能な指標となるかを検証する必要がある。

【コメント】

今年の4月より、理学療法士として独立行政法人国立病院機構福山医療センターで勤務させて頂いております。私は「日常動作から見える筋肉の衰え—ペットボトル開閉とサルコペニア—」をテーマに研究発表を行いました。

本研究では、地域在住高齢者の方々にご協力いただくとともに、自ら施設へ足を運び対象者を募るなど、データ収集の段階から主体的に取り組みました。また、通所リハビリテーション施設にもご協力をお願いし、多くの方々の協力のもと研究を進めることができました。研究の結果、ペットボトル開閉動作の可否と筋力・身体機能との関連が明らかとなり、特に握力や SPPB などの指標は臨床においても有用な評価となり得る可能性が示唆されました。これらの数値は、今後の臨床現場において簡便かつ実用的な指標として活用できるのではないかと考えています。また、日常生活動作を通してサルコペニアの早期発見につなげることができれば、重症化を防ぐだけでなく予防的介入にも寄与できると感じました。

今回の研究を通して、対象者の確保から評価・分析に至るまで一連の過程を経験できたことは、自身にとって大きな学びとなりました。今後もこの経験を活かし、臨床の中で患者様の変化に気づける理学療法士を目指して精進していきたいと思います。

作業療法士協会・県士会の認知度と加入意欲に関する県内の学生意識調査

作業療法学科 4 年 川崎愛佳



Key words : 日本作業療法士協会、加入意欲、学生調査

【はじめに】

医療専門職においては、職能団体が専門職の資質向上や社会的信頼の確立を支える重要な役割を担っている。日本作業療法士協会（以下、協会）は、教育・研修の充実、学術大会や研究支援、職能活動、制度や政策への提言など、多岐にわたる取り組みを行っている。協会、香川県作業療法士会（以下、県士会）ともに会員率は横ばいであり、加入意欲の低下や会員数の伸び悩みが課題とされている。本研究では、香川県内の作業療法士養成校の学生を対象に、協会および県士会に対する認知度や加入意識を明らかにし、加入促進に向けた教育的・職能的支援の在り方を検討することを目的とする。

【対象と方法】

本研究は、香川県内の 2 つの作業療法士養成校に在籍する学生を対象とした。両校の 1～4 年生に対し、Google フォームを用いたアンケート調査を実施し、研究参加に同意の得られた回答を分析対象とした。回答は選択式および自由記述式を併用し、得られた結果を集計・分析した。

【説明と同意】

対象者には本研究の目的・方法について文書にて十分な説明を行い研究参加の同意を得た。

【結果】

対象者 92 名中 57 名の回答が得られ、有効回答 61.9 率%であった。

1. 回答者の概要

- ・対象者は香川県内の 2 校に在籍する学生。回答者は計 57 名。
- ・学校種別：4 年制 96.5%、3 年制 3.5%
- ・性別：男性 43.9%、女性 56.1%
- ・学年：1 年 13 名、2 年 9 名、3 年 22 名、4 年 13 名

2. 協会に関する認知と意識

- (1) 協会の認知度 知っている 55 名、知らない 2 名
- (2) 活動内容について 知っている 7 名、知らない 7 名
- (3) ホームページ閲覧経験 あり 32 名 (56.1%) なし 25 名 (43.9%)
- (4) 活動内容を知っている あり 7 名 (12.3%) なし 50 名 (87.7%)
- (5) 魅力的と感じる活動内容（上位 3 項目）
 1. 学会・研修会・講習会等の開催 (30 名)
 2. 臨床実習に役立つ情報発信 (29 名)
 3. 国家試験対策に関する情報発信 (27 名)
- (6) 協会を知るきっかけ（上位 3 項目）
 1. 学校の授業 39 名 (68.4%)
 2. 学校の先生 35 名 (61.4%)

3. SNS7名 (12.3%)

(7) 12,000円の年会費をどう思うか

高い 39名 (68%) 妥当 17名 (30%) 安い 1名 (1.8%)

(8) 協会のイメージ (上位3項目)

1. 分からない 16名 (28%)
2. 作業療法士が集まる・協議する団体 11名 (19.2%)
3. 良い印象・前向きなコメント 8名 (14%)

学会・研究・勉強会のイメージ、 堅い・厳格

(9) 協会への入会意向

「入会したい」 19名 (33%) 「分からない」 34名 (60%) 「入会しない」 4名 (7%)

(10) (9) で「分からない」「入会しない」と回答した人の協会へ入会しない・迷う理由

「イメージがわからない」 15名 「協会の事を知らない」 11名

「お金がかかる」 3名 「その他」 5名

3. 県士会に関する認知と意識

(1) 県士会の認知度

知っている 43名 (75.4%) 知らない 14名 (24.6%)

(2) ホームページ閲覧経験の有無

あり 29名 (50.9%) なし 28名 (49.1%)

(3) 活動内容を知っているか

知っている 6名 (10.5%) 知らない 51名 (89.5%)

(4) 魅力的と感じる活動内容 (上位3項目)

1. 勉強会の開催 (43名)
2. 健康教室「各自治体の依頼」 (26名)
3. 学術研修会の開催 (25名)

(5) 入会意向

「入会したい」 14名 (24.6%) 「分からない」 35名 (61.4%) 「入会しない」 8名 (14%)

(6) (5) で「分からない」「入会しない」と回答した人の県士会へ入会しない・迷う理由

「県士会の事を知らない」 20名 「イメージがわからない」 9名 「その他」 6名

(7) 8,000円の年会費をどう思うか

高い 31名 (54.4%) 妥当 22名 (38.6%) 安い 4名 (7%)

4. 趣味活動について

(1) 現在の趣味活動の有無

「ある」 52名 (91.2%) 「ない」 5名 (8.8%)

(2) 就職後の趣味活動の継続

「継続する」 55名 (96.5%) 「継続しない」 (3.5%)

5. 情報収集時のツール

1. YouTube 43名 (75.4%)
2. TikTok 15名 (26.3%)
3. LINE、Instagram、情報誌 13名 (22.8%)

【考察】

本研究では、香川県内の作業療法士養成校に在籍する学生を対象に、協会および県士会に対する認知度と加入意識を調査した。その結果、多くの学生が協会や県士会の存在を認知していた一方で、活動内容まで理解している学生は少なく、加入意欲が十分に高まっていない現状が明らかとなった。

特に、「入会したい」と回答した学生は協会で33%、県士会で24.6%にとどまり、「分からない」と回答する学生が過半数を占めた。入会を迷う理由として「イメージがわからない」「内容を知らない」が多く挙げられ、情報不足が主な要因であることが示唆された。また、年会費を「高い」と感じる学生が6割以上に上り、金銭的負担も加入をためらう一因となっていた。

一方で、学生が主な情報源がYouTubeやTikTok、InstagramなどのSNSであることから、従来のホームページ中心の情報発信では学生層へのアピール力が不十分であることも分かった。今後は、SNSを活用したPR動画や短文投稿など、学生に馴染みのある媒体で視覚的・感覚的に伝わる情報提供を行うことが有効であると考えられる。また、学生自身が主体的に情報を得たり発信に関わったりすることで、協会・県士会への関心と専門職としての自立性を高めることにも繋がると考えられる。さらに、趣味活動に関する結果では、91.2%の学生が趣味を持ち、就職後も継続を希望していた。趣味はストレス発散や心の癒しとして機能し、学生の多くが生活を豊かにする意識を持っていた。この点から、協会や県士会の活動にも「楽しさ」や「仲間づくり」の要素を取り入れることが、学生や若手が参加しやすい雰囲気づくりに有効であると考えられる。

以上のことから、作業療法士協会および県士会の加入促進には、情報発信の工夫と心理的ハードルを下げる工夫の両面が必要である。学生の関心に寄り添った柔軟な活動展開を行うことで、職能団体への理解と参画意識が高まり、将来的な専門職としての成長にも寄与すると考えられる。そして、本研究を通して私自身も作業療法士としての責任感と主体的に学ぶ姿勢の重要性を再認識することができた。

【コメント】

この度、四国医療リハビリテーション同窓会学術大会において、「作業療法士協会・県士会の認知度と加入意欲に関する県内学生の意識調査」という演題で発表させていただきました。また、優秀賞をいただくことができ、大変嬉しく思っております。

本演題を設定した背景として、協会・県士会の会員数が現在横ばいで推移している現状があること、また、学生は協会および県士会の存在自体は認知しているものの、その活動内容や加入のメリットについて十分に理解できていない可能性があると感じたことが挙げられます。そこで本研究では、学生における協会の認知度や加入意識の実態を明らかにし、今後の加入促進に向けた教育的・職能的支援の在り方について検討することを目的としました。さらに、今後の取り組みとして、趣味を媒介とした活動を通じて、楽しさと専門性、そして仲間意識を融合させた関わりが求められていることが示唆されました。

今後は、病院における協会・県士会の意義について、学生との比較も踏まえた症例検討や研究に取り組むとともに、より一層臨床業務にも力を入れていきたいと考えております。

最後に、本研究にご協力いただきました県内の養成校の皆様、ならびに学術大会を開催して下さったスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

《24期生歓迎会の紹介》

日時：令和6年7月13日(土)

場所：ジャングルビアガーデン

参加者：24期生：6名、教務・卒業生16名

24期生歓迎会



日時:令和7年7月20日(日)

場所:ジャングルビアガーデン

参加者:25期生;6名

教務・卒業生;13名

25期生歓迎会



24~25期生の歓迎会を行いました。
同窓会員の先生方、教務の先生方にもたくさん集まって頂き、とてにぎやかで、
楽しい時間を過ごすことが出来ました。
歓迎会がみなさんの再会のキッカケになっているのかなと思うとうれしい限りです。
参加しやすいよう開催場所や催しを検討しています。
ぜひ、各期の同窓会を兼ねての参加を是非お待ちしております。

《25 期生紹介 PT》



香川県立中央病院

25 期生 理学療法士 小川僚介

香川県立中央病院に理学療法士として入職してから約1年が経ちました。県内の急性期医療を担う基幹病院という環境の中、経験豊富な先輩方に丁寧なご指導をいただきながら、なんとか1年目を乗り越えることができいております。当院では疾患別に複数のチームで対応しており、私は整形外科や消化器外科の患者様を主に担当するチームに所属しております。予定手術だけではなく交通外傷後やICU病棟にいらっしゃる患者様など、学生時代からは想像もできなかったリスクの高い方を担当させていただくこともあります。そのような患者様を担当する中で、リハビリ計画の立案や離床時のリスク管理、全身状態のアセスメント等、多種多様な壁にぶつかることも多いです。しかし、その度に先輩方が手厚くサポートしてくださり、この病院に入職できた幸せを改めて感じています。現在はプリセプターの先生からの影響もあり、「リハビリに対する良い印象を患者様にもってもらうこと」を大切に日々臨床に取り組んでおります。急性期病院は患者様にとってリハビリのスタート地点となることが多いです。そこでリハビリに対して前向きな印象をもつていただくことが、回復期以降のモチベーション維持や、早期の社会復帰に繋がるとじています。そのために、一方的なリハビリにならないよう、患者様とこまめに目標や計画を共有すること、ポジティブな声掛けを行うことを心がけています。私は大学卒業後、一度営業職を経験してから四国医療専門学校へ入り直しました。自分が学んだ事を活かして患者様のQOL向上に結び付いた時の喜びは、営業でよい数字を出した時とはまた違ったものです。数字ではなく笑顔が増えていく目の前の患者様を通して、「誰かの力になれている」と分かりやすく感じられる。これはリハビリ職の大きな魅力であると改めて実感しています。多忙な日々ではありますが、充実した専門学校生活を共にして5つ年下のクラスメイト達とは今でも頻繁に連絡を取り合ったり、休日に食事に出かけたりと、よい交流が続いています。最後になりますが、今の自分があるのは熱心にご指導いただいた先生方や共に切磋琢磨した友人たちのおかげです。今後も初心を忘れず、一人でも多くの患者様の力になれるよう精進してまいります。

《25 期生紹介 OT》



三豊総合病院

25 期生 作業療法士 磯野

作業療法士として令和 7 年度から、三豊総合病院で勤務しています。慣れない環境の中で始まった学生生活は、不安と期待が入り混じる日々でした。そんな日々を支えてくれたのはクラスの友達と先生方の存在でした。専門的な勉強や実習は難しく、思うようにいかないことも多くありましたが、友達と励まし合いながら乗り越えていくことで、前向きに取り組むことができました。また、先生方は分からないことを丁寧に教えてくださり、時には厳しく、時には温かく見守ってくださいました。

就職後も、困ったときや悩んだときには友達や先生方に相談できる環境にあるということは、大きな心の支えだと感じています。現在は急性期リハビリテーションで脳血管疾患や整形疾患、内部疾患を中心に介入させて頂いています。初めて経験する急性期リハビリテーションの現場では、戸惑うことが多く、患者様一人ひとりの病態や状態に応じたリハビリを提供することの難しさを強く実感しました。教科書で得た知識だけでは対応しきれない場面も多く、自身の知識や技術の未熟さに悩む日々が続きました。そのような中で、先輩や上司の方々に指導していただき、多くの助言やフィードバックを受けることで、少しずつ理解を深めることができました。また、日々の臨床経験を通して、患者様の状態を的確に評価し、その方に適したリハビリ内容を考える力の重要性を学びました。

今年から 2 年目となりますが、まだまだ知識や技術ともに未熟であることを日々実感しています。そのため、これまで以上に自己研鑽に励み、基礎から応用まで幅広く学び続けていきたいと考えています。

《26 期生紹介 PT》



独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター

26 期生 理学療法士 豊田紗那

私は 4 年間を通して、理学療法士として必要な基礎知識と、人と関わることの大切さを学びました。これまで深く学ぶ機会がなかった人体の構造や機能について理解を深めることができ、自分が理学療法士を目指すきっかけとなった「身体の仕組みへの興味」をより発展させることができました。特に、普段何気なく行っている動作一つ一つに意味があり、決して当たり前ではないことを、日々の学びを通して実感しました。

臨床実習では、学んだ知識が実際の臨床場面と結びつく面白さを感じるとともに、学んだ知識を関連付けて整理し、臨床に活かすことの難しさを実感しました。また、知識や技術に加え、患者様との関わりの重要性を強く学び、リハビリを通して「ありがとう」と言ってもらえた経験はとても印象的で、人の回復に関わる仕事のやりがいや喜びを実感しました。これらの経験から、理学療法は単に身体機能を改善するだけでなく、患者様の思いや不安に向き合い、その人にとって意味のある回復を支えることが重要であると感じました。

私は、患者様や職場の方々から信頼されることはもちろん、その人らしい生活を支えることのできる理学療法士を目指しています。そのためには、まだまだ知識や経験が不足していると感じていますが、一つ一つの学びを大切に、継続して努力を重ねながら成長していきたいと考えています。

最後に、学校生活を通して多くの学びの機会を与えてくださった先生方や、支えてくださった環境に心より感謝申し上げます。

《26 期生紹介 OT》



博愛記念病院

26 期生 作業療法士 西岡田悠人

作業療法士として令和 8 年 4 月より、博愛記念病院で勤務させていただいております。

私は回復期リハビリテーション病棟に所属しており、急性期病院での治療を終えたものの、ご自宅への復帰に不安がある方や、引き続き治療およびリハビリテーションを必要とされる方を対象に、回復期リハビリテーションを実施しております。現在は、先輩方とともにリハビリテーションを行っている段階ですが、見学を通して学ぶ介助方法や動作分析の考え方など、日々多くの刺激と学びをいただいております。

博愛記念病院の理念である「じぶんを生きる」をみんなのものに、を実現できるよう、今後も自己研鑽に励んでまいります。また、「じぶんを生きる」の「じぶん」にはスタッフ自身も含まれているため、体調やメンタルの管理にも気を配り、休日には適度にリフレッシュしながら働き続けていきたいと考えております。

今後、不安なことや困難に直面した際には、四国医療専門学校の先生方にもご相談させていただくことがあるかと存じます。その際はご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

〈新しい教員の先生の紹介〉

理学療法学科



名前	藤田 和美	生年月日	9月29日
血液型	A型	趣味	サッカー観戦、愛犬との戯れ
出身地	香川県三豊市	出身校	星城大学
経験年数	20年目(R8年度)		

なぜ、PT・OTになろうと思ったか？	幼少期より、身近に乳幼児期からリハビリに通い頑張っている存在があり、将来を考えるとときには自然とリハビリ職が頭に浮かびました。
教務になって感じたことなど	教務は楽しいことばかりではないと思いますが、まずは学生と向き合い、理学療法士の魅力を伝えられるよう自身が努力したいと思っています。
四国医療の印象	国家試験の合格率も高く、学生・教員ともに努力している学校だと感じています。学生と教員も仲が良い印象です。
臨床と教務の違い	1日の活動量が少なくなり運動不足です。また、リハビリについて「伝える」相手が学生に変わったことで、選ぶ言葉や伝え方を変える必要があると感じています。
最後に一言	理学療法の魅力や奥深さを伝えられる教員になれたらと思っています。よろしくお願ひします。

〈新しい教員の先生の紹介〉

作業療法学科



名前	倉本由伽	生年月日	飼育の日
血液型	不明	趣味	野鳥観察・思考
出身地	不明	出身校	玉野総合医療専門学校
経験年数	不明		

なぜ、PT・OT になろうと思ったか？	「支援学校」の教師になりたかったのですが、狭き門と学校の先生からアドバイスを受け、現実路線を考え、精神や小児分野も選択できる職域の広い作業療法を選びました。今ではとても懸命な選択であったと自負しております。
教務になって感じたことなど	責任重大な仕事だと痛感しています。常に自分と向き合い、怠けない己との戦いです。
四国医療の印象	真面目で丁寧な教育と、アットホームな雰囲気のある学校だと感じています。
臨床と教務の違い	臨床では対象者と向き合うことにやりがいを感じ、教務では未来の OT の卵と日々向き合っています。
最後に一言	自由。

《 総会・役員会・理事会の紹介 》

1. 総会

総会は毎年1回行なうものであり、常任理事、役員、会員のすべてが出席の対象となる。本会では①会則変更の決議、②予算案および予算の承認、③監査報告の承認、④本会会則による各種の承認事項、⑤その他会長が必要と定めた事項を決議する。

2. 役員会

役員会は常任理事と各支部長、支部次長の出席により毎年1回行なわれる。本会では①会則による各種の審議もしくは承認、②総会の提出する議案その他の審議、③理事会において決議された事項の承認、④学術委員会によって承認された学術会開催日時の承認および決定、⑤来年度の予算の編成、⑥その他の必要事項を決議する。

3. 理事会

理事会は常任理事によって毎年4回行なわれる。本会では同窓会運営を中心とした各部の活動計画や活動内容の報告と確認などを決議する。



《同窓会年間スケジュール》

4月	四国医療専門学校入学式
5月	第1回理事会
7月	第2回理事会
11月	第3回理事会
1月	第4回理事会
3月	学術研修会 役員会及び定期総会 四国医療専門学校卒業式(記念品贈呈・入会説明会)

《勉強会》

1月	テーマ:「住宅内における危険について」 講師:個人事業 shelca 理学療法士 野田康平先生
2月	テーマ:「スポーツ復帰までの考え方」 講師:広瀬病院 理学療法士 森脇涼平先生

《編集後記》

広報部部長に就任2年目となりましたが、同窓会の活動ではまだわからないことも多く、役員の先生方にはいつも助けていただくことが多い日々です。同窓会員が年々増えていく中で、同窓会の活動が会員同士の繋がりきっかけの場となり、また交流の場となれば大変うれしく思います。例年卒業祝いを開催させて頂いておりますが参加者数が少ない現状となっています。今後、皆様が参加しやすいよう工夫していきますので今後も多数の参加をお待ちしております。

同窓会誌に関してはHPにて掲載させて頂いております。同窓会誌の作成にあたっては、1人でも多くの方に読んでいただき、同窓会の活動について少しでも伝えることができれば、という思いで作成しました。そして、興味をもっていただき、参加してみようかな、来年も参加しようかなと思っていただければ幸いです。

最後に、同窓会誌を作成するにあたり、お忙しい中、ご指導・ご協力いただきました会員のみなさま、諸先生方に厚く御礼申し上げます。

最後まで見てくださり、ありがとうございました。

令和8年5月
広報部 篠原 雅樹